

発電所だより 2021年10月号

2021年10月発行 東北電力株式会社 女川原子力発電所総務部広報グループ 女川町塚浜字前田1 電話0225-63-3111 原子力の情報をホームページで公開しています。 <https://www.tohoku-epco.co.jp/>



《「第10回原子力のあり方に関する有識者会議」を開催しました》

当社は、原子力全般にわたる課題に関して、社外の有識者の方々から幅広くご意見・ご助言をいただくことを目的に、2011年10月に設置した「原子力のあり方に関する有識者会議」の最終会合を2021年9月22日に開催しました。会議では「当社原子力発電所の状況と再出発に向けた取り組み」および「これまでの有識者会議の総括と今後に向けて」をテーマに、委員の皆さまからご意見などをいただきました。当社といたしましては、これまで委員の皆さまからいただいたご意見・ご助言の内容を踏まえ、地域とのコミュニケーションや発電所の安全性向上をはじめとした各種取り組みのさらなる充実・強化を図ってまいります。

会議の概要

当社からは、原子力発電所の運転再開を単なる再稼働ではなく「再出発」と位置づけ、全社を挙げて取り組んでいること、これまで委員の皆さまからいただいた「地域理解・情報発信・組織風土・安全性向上」等に関するご意見・ご助言の反映状況などについて説明しました。



あいさつをする樋口社長



会議の様子(複数会場をリモート会議で接続)



座長を務めていただいた北村正晴氏

過去に委員の皆さまからいただいたご意見の反映状況(一例)

ご意見

- ・原子力事業を進めていくには地域とのコミュニケーションが大切。
- ・相手の立場に合わせた丁寧なコミュニケーションに努めてほしい。

女川原子力発電所の反映状況※

- ・年2回の「こんにちは訪問」を継続実施しています。
- ・地域の皆さまを対象とした説明会を適宜開催。発電所員自らが講師となり、コミュニケーションの充実を図っています。



説明会の様子

※女川原子力発電所では、委員の皆さまからいただいたご意見・ご助言をもとに活動を強化・継続しています。

委員の皆さまからいただいた主なご意見・ご助言

- ①事業活動の基盤は「信頼」、②発電所は安全に、安定した運転を継続してこそ、地域の皆さまからの信頼が頂ける、③守るべきものは「信頼」、変えるべきものは「意識」、との認識のもと、原子力発電所の再出発に向けて取り組んでいこうとする姿勢がよく伝わった。
- 原子力発電所の安全性が着実に向上していることは理解したが、大事なことは発電所の情報が地域住民にどのように伝わるかということである。地域住民の生活に寄り添った、分かりやすい情報発信を心がけてほしい。
- 女川町においては、世代交代が進んでいるなかで、若い世代が女川原子力発電所のことをどのように捉えているのか、なかなか把握できない状況である。発電所の見学会などを通じて、しっかりとコミュニケーションを図ってほしい。

委員の皆さま(五十音順)

浅利靖氏(北里大学医学部 医学部長)、新野良子氏(株新野屋 専務取締役)、北村正晴氏(株テムス研究所 代表取締役所長/東北大学 名誉教授)、高橋正典氏(株高政 代表取締役会長) 谷口武俊氏(東京大学公共政策大学院 客員教授)、中村葉志生氏(株ハリートンカンパニー 代表取締役)、橋爪秀利氏(東北大学大学院工学研究科 教授)

《交通安全活動を実施しました》

9月21日、秋の交通安全運動にあわせ、発電所員および構内協力企業社員18名が安全運転意識の向上を目的とした活動を行いました。

当日は、女川町飯子浜地区および小積浜地区において、交通安全メッセージが書かれたのぼり旗を掲げ、往来する車両に安全運転を呼びかけました。



のぼり旗を掲げて交通安全を呼びかける
発電所関係者

《10月もハチ刺されに注意が必要です》

スズメバチの被害は、一般的に夏場に多く発生するイメージがありますが、10月も引き続き注意が必要です。これは、女王バチが作った巣が10月ごろに最も大きくなり、働きバチの活動が活発化し、いつも以上に攻撃性が高くなるためです。

ハチ刺されの被害にあわないためにも、ハチを刺激する「黒色の服」や「においの強いもの」を身に着けることは控えましょう。また、ハチは大きな音や動きにも敏感なため、遭遇した場合には、焦って大声を出したり、振り払ったりせずに、静かにその場を離れましょう。

当発電所では、万が一ハチに刺された場合に備えて「ハチ刺され応急手当用品」を配備したうえで、屋外作業を行っています。

ハチに刺された場合の対処法

- 1. 刺された部分を観察**
(針が残っていたら抜く)
- 2. 毒を絞り出す**
(必要に応じてポイズンリムーバーなどを使用)
- 3. 薬を塗る**
(抗ヒスタミン軟膏かステロイド軟膏を塗る)
- 4. 冷やす**

発電所に配備しているハチ刺され応急手当用品(一部)

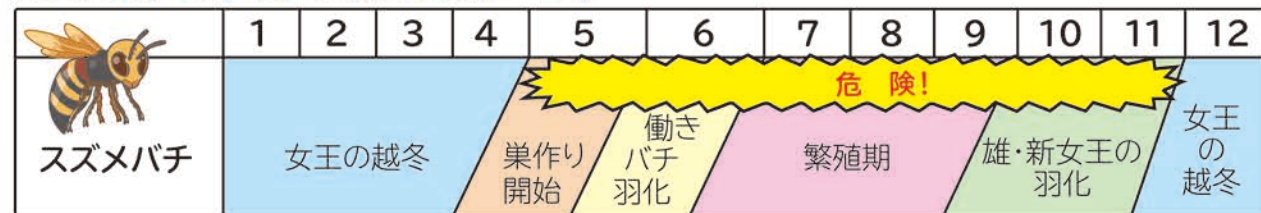


ポイズンリムーバー

抗ヒスタミン軟膏

冷却材

スズメバチのライフサイクル(イメージ) ※地域や気象条件、ハチの種類によって異なる場合があります。



《「第20回東北電力図画コンクール」 一般投票を行っています》

今回のコンクールには、前年を上回る4,681点もの作品が寄せられました。たくさんのご応募をいただきありがとうございました。

10月31日までの間(10月18日の休館日を除く)、一次審査を通過した200作品を女川原子力PRセンターに展示し、作品への一般投票を受け付けています。ぜひ、ご来館いただき、お気に入りの作品に投票してください。



展示の様子

新型コロナウイルス感染防止の観点から、ご来館いただく際には、お電話での事前申し込みをお願いいたします。

お問い合わせ先

女川原子力PRセンター

(〒986-2221 牡鹿郡女川町塚浜字前田123)

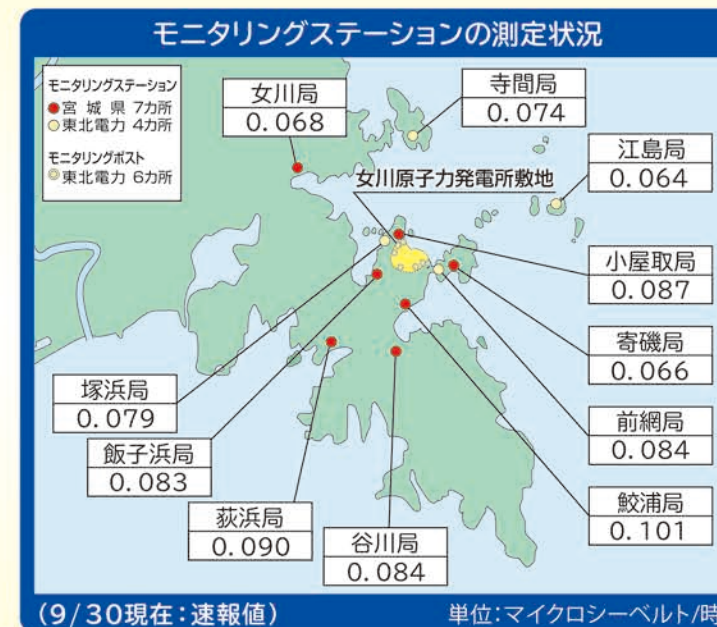
開館時間 9:30~16:30 《休館日:毎月第3月曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始》

電話番号 0225-53-3410

《女川原子力発電所周辺の放射線量は安定しています》

女川原子力発電所周辺の放射線はモニタリングポスト※1やモニタリングステーション※2で測定・監視しており、その測定値は宮城県および当社ホームページで公開しています。

発電所敷地内に設置してあるモニタリングポストの2021年9月30日の測定値は、最大で0.045マイクロシーベルト/時程度で安定しており、健康に影響を与えるレベルではありません。



(参考) モニタリングポストの最小値と最大値※3

〈東北地方太平洋沖地震発生日〉	最小値	最大値
2011年3月11日	0.027	0.064
〈地震発生後最大値〉		
2011年3月13日	1.8	21※4
〈地震発生から2年と至近2年の(4/1)値および前月値〉		
2012年4月1日	0.063	0.098
2013年4月1日	0.055	0.076
2020年4月1日	0.034	0.055
2021年4月1日	0.034	0.047
2021年9月1日	0.035	0.054
2021年9月30日	0.034	0.045

単位:マイクロシーベルト/時

※1 モニタリングポストは発電所敷地周辺の環境放射線を測定しています。女川原子力発電所の敷地境界には6基のモニタリングポストが設置されています。
 ※2 モニタリングステーションは環境放射線に加えて気象データを測定しています。
 ※3 モニタリングポストの測定値は、宇宙線(宇宙空間を飛び交う高エネルギーの放射線)の影響分が含まれないため、モニタリングステーションの測定値より0.02~0.04マイクロシーベルト/時程度低い測定値となっています。
 ※4 東京電力福島第一原子力発電所からの放射性物質の放出に伴い測定されたもので、測定された時間は約10分間です。